

ソーシャル・ジャスティス基金
2022年度第11回助成事業

デートDV防止から始める ジェンダー平等な社会づくり

報告書



NPO 法人デート DV 防止全国ネットワーク

ソーシャル・ジャスティス基金

2022 年度第 11 回助成事業

デートDV防止から始める ジェンダー平等な社会づくり 報告書

この報告書は、ソーシャル・ジャスティス基金（SJF）2022 年度第 11 回助成を受け、2023 年 1 月から 2024 年 7 月までに実施した「デートDV防止から始めるジェンダー平等な社会づくり」の事業についてまとめたものです。

NPO 法人デートDV防止全国ネットワーク

目次

1、事業の目的と実施概要	1
2、実施実績	3
① 啓発講座 企業向け 九州内のグループ企業 A 社	3
研修 デロイト トーマツ グループ	5
勉強会 デロイト トーマツ グループ	6
② 啓発講座 LGBTQ コミュニティおよび障害福祉施設向け	7
③ 啓発講座 国会議員向け	9
④ シンポジウムの開催	11
⑤ ユースプロジェクト	15
3、課題と展望	19

1、事業の目的と実施概要

ソーシャル・ジャスティス基金（SJF）2022年度 助成事業 「デートDV防止から始めるジェンダー平等な社会づくり」

<事業の目的>

本事業では、デートDVが深刻な人権侵害であり暴力であることを社会全体に啓発し、デートDV予防教育や啓発グッズの作成などを通して、ジェンダー平等社会の実現とDVや虐待など暴力の連鎖が起きない社会の構築を目的とする。

当団体は、デートDV予防教育を普及することで、デートDVのない社会の実現を目指し、全国で活動する個人や団体、機関が繋がる活動を行っている。これまで、学校現場での予防教育を普及するためのアプローチを行ってきたが、本事業では、子どもたちや教職員だけでなく、社会の構成員全てへのアプローチを始める。なぜならデートDVは学校現場だけで起きているわけではないからである。

企業の経営者や労働組合、行政担当者、国会議員や地方議員など社会システムに関わっている全ての層に対しての啓発講座の開催や予防教育プログラムの提供を通し、社会全体への啓発と社会変容を目指す。さらに、障がいのあるカップル、LGBTQ+など、様々な立場のカップルでもDVが起きていること、相談機関へつながることがより困難であることから、当事者のコミュニティと交流しながら、どんなプログラムを届けることが有効かを考える。

<実施概要>

啓発講座	①企業向け	九州内のグループ企業 A 社での研修実施 デロイト トーマツ グループでの研修と勉強会実施
	②LGBTQ コミュニティおよび障害福祉施設向け	大阪 QWRC での実施
		横浜 SHIP での実施
		京都 ALBUM での実施
③国会議員向け	院内勉強会の開催	
④シンポジウムの開催	デートDV防止スプリング・フォーラムの開催	
⑤ユースプロジェクト	カードゲームの開発	

啓発講座 ①企業向け



啓発講座 ②LGBTQ コミュニティ および障害福祉施設向け



啓発講座 ③国会議員向け



④シンポジウムの開催



⑤ユースプロジェクト



2、事業実績

啓発講座 ① 企業向け研修－1

事業名	企業向け研修「ヘルシーリレーションシップ」 九州内のグループ企業 A 社
実施方法	2023 年 12 月 21 日（木）9 時から 10 時半 A 社本社研修室 対面及び ZOOM Meeting にて実施 対面参加 35 名 オンライン及び録画参加 25 名 2023 年 12 月 22 日（金）10 時から 11 時半 A 社グループ企業会議室 対面と後日の録画視聴で実施 対面参加 12 名 録画視聴約 50 名 講師担当 NPO 法人デート DV 防止全国ネットワーク代表理事 中田慶子
参加者合計	参加者 約 120 名 アンケート協力者 80 名

A社様研修会

ヘルシーリレーションシップ

職場、友達、交際相手、家庭・・・
DV/デートDVの現状と防止のために

NPO法人デートDV防止全国ネットワーク 代表理事
NPO法人DV防止ながさき 理事長
中田慶子

SOCIAL JUSTICE FUND

* 本日の研修はSJF基金の助成によって実施しています

2023.12.21～22九州朝日新聞

ヘルシーな関係 VS アンヘルシーな関係

イヤなことはイヤと伝えあえる
相手と自分の両方を大切にできる

対等・敬意
安心

ヘルシーな関係

イヤだと思っけていてもイヤだと言えない
イヤだと伝えてもやめてもらえない

支配
不安

アンヘルシーな関係

2023.12.21～22九州朝日新聞

企業でDV/デートDV防止に取り組む意義

- ・被害/加害が起きた時のリスク管理（どのカップルでも起きる可能性を前提に）
- ・被害者のリスク：暴力から避難するために転居、転職が必要となる
キャリアの中断・喪失、個人と企業としての損失
暴力被害の心身のダメージは大きく、回復に長期間を要する
（婚姻していれば、離婚手続き、子らの転校、子への暴力の影響などのリスクも）→子どもへの影響は後述 社会的な影響大
- ・加害者のリスク：被害者と離れたことによるダメージ、場合によっては刑事罰も
離婚調停・裁判などでのストレス、企業としての損失
- ・職場内に被害者・加害者がいた場合の対策
ハラスメント対策と同様だが、交際相手や夫婦間の場合には、相談、介入が困難（社内相談 → 外部機関へつなぐ道筋）
- ・無いことが望ましいが、起きることを前提に未然防止、事後対策も必要

2023.12.21～22九州朝日新聞

実施状況

2023 年 12 月 21 日と 22 日の両日、九州内のグループ企業 A 社に伺い、「ヘルシーリレーションシップ」と題して、DV/デート DV 防止のための社員研修を行った。事前に各回のそれぞれの担当者の方と細かく打ち合わせをさせていただいた。ハラスメント研修は当然されているが、DV/デート DV についての研修は初めてということだった。

内容

- ・SDGsの5番目のゴールであるジェンダー平等はすべてのゴールに通底する課題で、DVや性暴力はジェンダーに基づく暴力として位置付けられていること。
- ・暴力が力による支配であり、力関係の差があるところに起きやすいこと
- ・ヘルシーな関係とアンヘルシーな関係の違い、アンヘルシーな関係で何が起きるか
- ・国内や県内のDV被害の実態
- ・企業がDV/デートDV防止に取り組む意義
- ・DVによる経済的損失の大きさは年間10兆円近いと推定されること
- ・DVを目撃することの子どもへの影響の深刻さについて
- ・予防教育の効果と重要性について
- ・ヘルシーなコミュニケーションづくりの方法について

終了後、Googleフォームでアンケートをお願いしたが、80名から感想が寄せられ、企業でも社会貢献のひとつとして研修が必要であること、子どもへの影響が深刻であることを知った、職場での関係や家庭の子どものデートDVについても目を向けたいといった感想が多かった。

アンケートの内容の主なものは以下の通り

- ・研修で印象に残ったこと

子どもへの影響の大きさ	16
想像よりも被害者が多いこと	14
DVの社会的コストの大きさ	11
ヘルシーな関係、対等な関係などが大事	7
デートDVの存在、予防教育	3
女性から男性へのDVも思ったより多い	3
その他、法律の不備、被害者の不利益、対策が遅れている など	

- ・企業でDV防止に取り組むことについて

とても必要、当然のこと	65
プライバシーを大事に慎重な対応が必要	3

- ・これから個人として取り組みたいこと

アサーティブやコミュニケーション、相手との関係を大事に など	21
相談、手助け、心配りをする、相談機関へつなぐ	11
家庭やPTAで話題にしたい、子どもの様子に気を付けたい など	7

- ・これから企業として取り組みたいこと

定期的な研修をする	14
相談しやすい雰囲気づくり、サポート体制、支援機関につなぐ など	13

啓発講座 ① 企業向け研修－2

事業名	企業研修「DV/デート DV の現状と予防の重要性」
日時	2023年12月11日(月) 12時から13時
場所	オンライン
参加者数	参加者(デロイト トーマツ グループの社員 346人)

デート DV 予防教育を普及するためには、企業で働く人にもその必要を理解してもらうことから進めることを計画し、連携先の企業を探したところ、2021年より社内の DFV (Domestic & Family Violence パートナーや家族からの暴力) 被害者への支援を始めたというデロイト トーマツ グループに出会うことができました。

この企業では、社内に DV 被害者があった場合に、①提携機関の専門員による相談対応、②同行支援、③シェルターを依頼し、④特別休暇の付与を実施している。

日本に2万人の社員を有するこの企業は、「会社は社会の縮図であり、DV が社会の中で一定の数で起きているなら、社内にも被害者がいるはず。DV 対策を行うことは、経営戦略でもある。社内の DV 被害者への支援を積極的に始めた」という。

本取組について社内ですらに周知・啓発が必要だということで、社内向け啓発講座の中で、阿部真紀が登壇した。

当日は、昼休みの1時間を利用しオンラインにて実施した。(その後録画視聴も合わせ346人が参加した。)

まず、社内 DEI (Diversity, Equity and Inclusion 多様性、公平性、包括性) グループより、DFV サポート制度の紹介が行われた後、阿部より「DV/デート DV の現状と予防の重要性」について講演した。

DV の社会的コストは、日本では年間6～10兆円と推計されること、また、デート DV の現状と課題、予防の重要性、予防教育の紹介と有効性、全国での実施状況などを説明した。

その後のパネルディスカッションでは、社員2名と阿部が、DV 課題に関して企業が向き合い取り組む意義、そして、被害者にも加害者にもならないために、傍観者ではなく支援者となるために、自分の子どもや大切な人を守るために、一人ひとりができるアクションを語り合った。

当日の様子は、下記にレポートされている。

[組織におけるDV被害者サポートの重要性 ～企業や、周囲のメンバーにできること～ | DEI Stories & Reports | Deloitte Japan](#)

啓発講座 ① 企業向け研修 3

事業名	企業の取組についての勉強会「今、企業がDV施策を推進すべき理由」
日時	2024年2月2日（金）19時から20時15分
場所	オンライン
参加者数	参加者（デートDV防止全国ネットワーク会員20人）

デロイト トーマツ グループの先進的なDV施策を学びあうことを目的に、勉強会を開催した。講師として、デロイト トーマツ グループ Diversity, Equity & Inclusion マネージャー高畑有未さんを招き、「今、企業がDV施策を推進すべき理由」をテーマにお話しいただいた。

DEI（多様性、公平性、包括性）推進は最も重要な経営戦略の一つであるとし、特にインクルーシブな組織は、ビジネスや組織の成長を多角的にもたらすことを説明された。

デロイト トーマツ グループが DEI の観点で DV/デート DV 被害支援に取り組む理由として、下記の4つが挙げられた。

理由①：ダイバーシティやインクルージョンが価値創造へとつながるには、その基盤となる公平性や尊厳が担保されないことには実現しないこと

理由②：コロナ禍による働き方の変化は、WORK（公）とPERSONAL（私）の関係性、そして組織と個人の関係性にも変化をもたらしたこと

理由③：ESG（環境・社会・ガバナンス）や人的資本経営の重要性が高まる現状において、DV/デートDVは人権×ビジネスの観点でも大きな課題であること

理由④：国内法の改正はもちろん、特にグローバルな組織には世界基準との準拠が求められることが想定され、本領域における企業として対策が求められると予測されること

参加者の感想

- 人権が企業の課題として考えられる時代になっていることがわかった。女性のリーダー育成を行政は大きく打ち出しているが、人権侵害されている女性の人権擁護の問題を解決することが優先されなければならないと痛感した。
- 企業や公務員にも加害者、被害者はたくさんいるので、社会人対象の研修はとても大事だと改めて思いました。
- 企業の経営哲学が人権の視点からも健全であれば、デロイトトーマツのような取組みが可能になるということが衝撃でした。企業などでの人権研修は、最近のパワハラ・セクハラ・LGBTQがほとんどでしたが、今後はDVについても人権啓発事業として積極的に取り組みたいと思いました。
- 企業に働く人へDVのことが知られるということは、個人の問題ではなく社会の問題だという認識が社会に広まる大きなきっかけになると思います。社会人の認識が変われば、地域や学校、子供たちに対しても正しいDV教育がなされるようないい循環が生まれると希望が持てます。

啓発講座 ② 障害福祉施設およびLGBTQコミュニティ向け

事業名	障害福祉施設およびLGBTQコミュニティ向けデートDV予防啓発講座
日時	2023年11月28日～2024年7月4日
場所	対面：LGBTQコミュニティおよび障害福祉施設
参加者数	21人

障害福祉施設およびLGBTQコミュニティ向けにデートDV予防啓発講座を実施した。

以下に実施日程と内容の詳細を記載する。

実施日程および講座概要

1. QWRK様

実施日：2023年11月28日
対象：LGBTQコミュニティメンバー
場所：QWRK施設内
参加人数：6名

2. SHIP様

実施日：2024年5月25日
対象：LGBTQコミュニティメンバー
場所：SHIP施設内
参加人数：5名

3. ALBUM様

実施日：2024年7月4日
対象：障害福祉施設利用者およびスタッフ
場所：ALBUM施設内
参加人数：10名

内容の詳細

1. デートDVの定義

- デートDVとは何か、どのような形で現れるかを説明。
- 特にLGBTQコミュニティや障害を持つ人々が直面しやすい問題点に焦点を当てる。

2. 境界線の設定

- 各自の境界線を認識し、尊重することの重要性を強調。
- 具体的な例を挙げて、日常生活での適用方法を紹介。

3. 性的同意について

- 同意の概念とその必要性を説明。
- 同意を得るためのコミュニケーション方法を実践的に学ぶワークショップ。

4. 実践ワークショップ

- シミュレーションを通じて、境界線の設定や同意の確認を練習。
- 参加者同士でのディスカッションを通じて、実際の状況での対処法を考える。

5. カードゲーム「サチヨと恋バナ」を使った恋愛観についてのディスカッション

- カードゲームを通じて、恋愛観を共有し合い、健全な関係性の構築を目指す。
- ゲームの内容を通じて、デート DV の予防に必要なスキルや知識を学ぶ。

参加者の感想

- 「色々なワークがあって、考えるきっかけになった。」
- 「ヘルシーなパートナーシップについて考えることで、パートナーシップについて改めて考えることができた。」
- 「同意の確認など大切だなと改めて感じました。」
- 「ゲームも交えたことで、自分の境界線を知るきっかけにもなりましたし、色々な考え方があるという気づきにもなりました。」
- 「デート DV が主なお話のテーマでしたが、相手を尊重した伝え方や断り方などについては普段の日常生活でも役立つ内容だと感じました。」

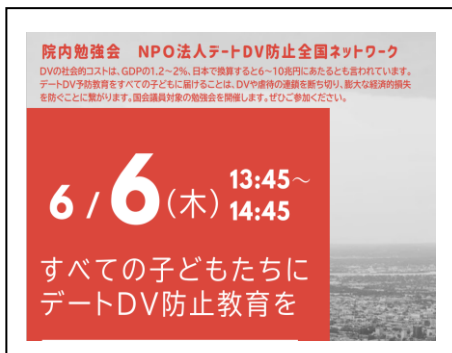
啓発講座 ③ 国会議員向け 院内勉強会

「DVの社会的コストと予防教育の効果～すべての子どもたちにデートDV予防教育を～」

事業名	「DVの社会的コストと予防教育の効果～すべての子どもたちにデートDV予防教育を～」
日時	2024年6月6日(日) 13時45分から14時45分
場所	衆議院第一議員会館第5会議室
参加者数	参加者30人(うち国会議員4人、秘書、メディア等)

実施内容

2024年6月6日、衆議院第一議員会館第5会議室にて、NPO法人デートDV防止全国ネットワーク(以下、全国ネット)が企画する院内勉強会「DVの社会的コストと予防教育の効果～すべての子どもたちにデートDV防止教育を～」を開催した。会場には衆議院本会議を終え駆けつけた国会議員4人を含む総勢30人の参加者が集まった。



- ・「デートDVの実態と予防教育の必要性」中田慶子(NPO法人DV防止ながさき理事長)
- ・「DVの社会的コストについて」武石智香子(中央大学商学部教授)
- ・「デートDV予防教育の効果測定調査報告」阿部真紀(認定NPO法人エンパワメントかながわ理事長)
- ・「生命の安全教育の現状と課題」染矢明日香(NPO法人ピルコン理事長)

- ・「家庭法改正後、求められる予防教育について」斉藤秀樹(弁護士)

代表理事の中田慶子(DV防止ながさき理事長)は、デートDVの実態については、令和5年度内閣府の男女間暴力調査では、交際相手からの暴力は、18%(女性22.7%、男性12%)が経験。うち女性の23.3%、男性の7.2%が「命の危険を感じた」と回答し、被害を受けた人の39.1%は、どこにも相談していないことを指摘した。さらに、一年前に横浜市鶴見区で起きた18歳の大学生が交際相手から殺害された事件は記憶に新しいが、殺害に至らないまでも日常的に多くの被害が起きていると、予防教育の必要性を訴えた。

中央大学武石教授による「DVの社会的コスト」についての講演では、「社会的コスト推計とは、社会問題により発生するコストを金額に換算した「経済的損失」として可視化することによりその影響を把握する試み」であること、推計の方法としては、主に2つあり、データを基に積み上げ方式で算出するボトムアップ方式、それを割合として他国に当てはめ

るイーサリアル方式があることが説明された。EU が試みた IPV(=DV)と GBV(ジェンダーに基づく暴力) の社会的コストの推計を、人口比で日本に当てはめると約 8 兆円になる。また、実質 GDP からの割合から試算すると、6.7～11.2 兆円になることが報告された。



事務局長の阿部真紀（認定 NPO 法人エンパワメントかながわ理事長）は団体がこれまでに
行った調査について報告した。全国での予防教育実施状況調査を行ったことで見えてきたこ
とは、地域差であること。例えば、長崎県では、中学生人口の 18%、高校生人口の 25%が
受講しているが、神奈川県では中学生人口の 1%、高校生人口の 1.5%しか受講できていな
い現状が浮かび上がってきたと説明した。子どもたちがどこに住んでいても同じ機会を受け
ることができるために、国としての施策が必要であるとして、台湾の例が提示された。台湾
では、いわゆる DV 防止法、ジェンダー平等法、性暴力防止法の 3 つが、小学校から高校ま
で毎年、合計 20 時間の予防教育を受けるよう義務付けられていることを紹介し、日本の子
どもたちに予防教育を届けられる体制を作ることを求めた。

NPO 法人ピルコン理事長染矢明日香による「生命の安全教育の現状と課題」についての講
演では、生命（いのち）の安全教育が子どもたちが性暴力の加害者、被害者、傍観者になら
ないことを目的に、全国の学校で政府が推進していること、令和 5 年度より 3 年間、「集中
強化年間」が始まっているところだが、各教育委員会で取組のばらつきがあることが指摘さ
れた。

弁護士の齊藤秀樹は、家庭法改正が決議された今、今後政治の中で検討すべきこととして、
支援体制の拡充と質の確保、養育費の立て替え払いについて、DV 予防教育の推進の 3 つを
提案した。

<発言した国会議員>

西岡秀子衆議院議員、早稲田ゆき衆議院議員、大河原まさこ衆議院議員、酒井なつみ衆議院
議員

④ シンポジウムの開催 「デート DV 防止スプリング・フォーラム 2024」

ここから始まるヘルシーリレーションシップ～対等で大切にしよう関係をあたりまえに～

事業名	デート DV 防止スプリング・フォーラム 2024
日時	2024年3月10日(日) 10時から17時
場所	ZOOM Webinar および Meeting
参加者数	参加者 157人 (うち一般 34人、学生 33人、講師 7人、会員 83人)



開催：2024年3月10日(日)

1. 内容

<午前の部>(ZOOM Webinar) 10時から12時40分

- ☆行政説明：内閣府男女共同参画局・文部科学省・警察庁
- ☆基調講演：「自分らしく生きるためのヘルシーリレーションシップ」
シオリーヌ：助産師/性教育 YouTuber
聞き手：阿部真紀（認定 NPO 法人エンパワメントかながわ理事長）
- ☆ユースプロジェクト報告：「ヘルシーリレーションシップ構築に役立つカードゲーム制作」
高島菜芭（Genesis 共同代表）

<午後の部>(ZOOM Meeting) 13時30分から17時

- ☆講演：「今、企業がDV施策を推進すべき理由」
高畑有未：デロイト トーマツ グループ Diversity, Equity & Inclusion マネジャー
聞き手：中田慶子（NPO 法人 DV 防止ながさき理事長）
- ☆講演：「発達がゆるやかな人に伝えるデートDV予防教育～放課後等デイサービスAngeの性教育の実践から」
郡 奈美：株式会社徳洋福祉会 Ange（アンジュ）
聞き手：長安めぐみ（前群馬大学ダイバーシティ推進センター副センター長）

<休憩 10分>


- ☆講演：「多様な性の視点から考えるヘルシーリレーションシップ」
松岡宗嗣：一般社団法人 fair 代表理事
聞き手：染矢明日香（NPO 法人ビルコン理事長）
- ☆交流会：（デート DV 防止全国ネットワーク役員らと小グループに分かれて語りあう）
- ☆大会宣言



シオリーヌさん



高畑有未さん



郡奈美さん



松岡宗嗣さん

実施内容

2024年3月10日、11回目となる「デート DV 防止スプリング・フォーラム」を開催した。今回のテーマは「ここから始まるヘルシーリレーションシップ～対等で大切にしよう関係をあたりまえに～」。

オンラインでの開催に 157人が集まった。

午前の部では、内閣府、文部科学省、警視庁からの行政報告に続き、助産師で性教育 YouTuber のシオリーヌさんから「自分らしく生きるためのヘルシーリレーションシップ」をテーマに講演いただいた。

ユースプロジェクトからは「ヘルシーリレーションシップ構築に役立つカードゲーム」について、カードゲームのねらいと内容を紹介した。

午後の部は、企業が取り組む DV 施策、放課後デイサービスにおける障害のある子どもへの性教育、多様な性の視点からヘルシーリレーションシップを考えるといった多彩なテーマで3つの講演が行われた。講演後は参加者同士の交流会も行われ、実り多いフォーラムとなった。

ここでは、シオリーヌさんの基調講演と、「徳洋福祉会 Ange」の 郡 奈美さんの講演の内容を紹介する。

基調講演「自分らしく生きるためのヘルシーリレーションシップ」

シオリヌさん(助産師／性教育 YouTuber)

私たちのSRHR

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
→性と生殖に関する健康と権利

セクシュアル・ヘルス
性に関することについて心身ともに満たされ健康にいられること
その状態を社会的にも認められていること

リプロダクティブ・ヘルス
妊娠したい人も妊娠したくない人も、産む・産まないに関心がない人も
心身ともに満たされ健康にいられること、それを社会的に認められていること

セクシュアル・ライツ
性のあり方を、自分で決められる権利、自分の愛する人、自分のプライバシー
自分の性的な行動を自分で決められる権利

リプロダクティブ・ライツ
産むか産まないか、いつ・何人子どもを持つかを自分で決める権利
十分な情報を得られ、生殖に関するすべてのことを自分で決められる権利

性教育講演等でも活躍するシオリヌさんが、ヘルシーリレーションシップの基盤となる考え方や、人と人が健康的な関係性を継続する上での具体的な実践方法について紹介。

「SRHR (セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)」

まず最初に紹介いただいたのは、「SRHR (セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)」という考え方。

「心も体も満たされて、健康にいられるということ、その状態を社会からも認められているということ」をセクシュアル・ヘルス (性の健康) という。人が社会からも認められていると感じられるためには、「社会の中に自分が選びたい選択肢が用意されていること」「どんな選択を選んでも良い／悪いというジャッジをされないこと」が必要だ。その定義から見ると、同性カップルに結婚が認められていないという社会の状況は選択肢が用意されていないということになる。また、SRHRには「私の体も、人生も、私だけのもの。私の体や人生に関することを決める権利は、私にしかない」という意味が込められており、その権利は、誰もが、いつでも「ノー」と言う権利があるということをお忘れずにいることが大切、と語った。

性的同意：Sexual Consent

そして、性的同意について。性的同意とは、特に性的なスキンシップを行う前にお互いの不明確な「イエス」を確認するカルチャーのこと。同意を確認する責任は「アクションを起こしたいと思った人」にある。自分が無意識に加害者になってしまわないためにも、相手のSRHRを尊重するためにも、明確な「Yes」、つまり「相手も主体的に性的なスキンシップを持つことを望んでいるのだということ」を確認するカルチャーを身につけていくことが大切だと言う。

アクティブ・バイスタンダー

性暴力被害を食い止めるには、アクティブ・バイスタンダー（行動する傍観者）の存在があるかどうかがとても重要である。被害が起きそうな場面に遭遇した際に、何らかのアクションを起こして未然に食い止めたり、被害者のサポートをしたりするアクティブ・バイスタンダーが増えることは、性暴力の加害をしにくい社会をの形成に繋がる。それぞれで自分だったらどんなことができそうか、考えてみてほしいと訴えた。

ヘルシーな関係とは

シオリーヌさんが考えるヘルシーな関係性とは、相手を大事にするのと同じように、自分のことも大事にし「ありたい自分のまま」でいられる関係のこと。そのための心がけとして、一番身近で隣にいるパートナーと年に1度「家族会議」を実施している。互いに自分の気持ちや考えていることを開示し、もしうまくいっていないことがあったら、何が原因なのかを「分析研究」する。そのことが、互いの頑張りを認め、互いの存在を認める時間になっていると語った。

講演「発達がゆるやかな人に伝えるデートDV 予防教育～放課後等デイサービス Ange の性教育の実践から」

郡 奈美さん(株式会社徳洋福祉会 Ange)

障害のある子に向けた性教育を始めて6年になるという郡 奈美さん。勤務する放課後等デイサービスで、初めて高校生男子のセルフプレジャー（自慰行為）を見たことが、性教育を本格的に始めるきっかけになった。講演では、障害のある子に向けた性教育の実践例や工夫しているポイント、具体的な成果について紹介した。

5.性教育を始めて気づいたこと

④デートDVの種類を知らない

- 男女ともに、デートDVとはどんなものかを知らない
- ジェンダー格差から「こうあるべきもの」との思い込み
- お付き合いをしている時は、なんでも二人で決める
- 同意を得る大切さ
- 人に近づく時・手をつなぐとき・デートの行き先等



Angeに通う子どもたちについて

Angeでは主に知的障害児に対して性教育を行なっている。知的障害、自閉的傾向、ADHD、感覚過敏など、様々な特性を持つ子どもたちが通っている。

Angeでの性教育を始めたきっかけ

ある日、高校2年生の男子が施設内で隠れてセルフプレジャーをしていた。その時はびっくりして怒ることしかできなかったが、そのことをきっかけに性教育を学び始めた。障害者の権利条約の中に、障害者にも性教育を受ける権利があるが、学校ではなかなか性教育を受けることができない。ならば私がやろうと考えた。

障害のある子に向けた性教育の実践と成果～性教育を始めて気づいたこと～

性教育を始めた当初から「保護者に承諾を得てから始めること」「実施した日は教えた内容を必ず保護者に電話で伝えること」「その際教えたことで困ったことはないかを必ず聞き取ること」という3つの条件を決めて実施している。

性教育を行なってから、困った行動をした子どもは、これまで一人もいない。むしろ性教育を通して、親から大切に育てられた安心感や自分はこのままの自分でいいという肯定感が得られ、子どもたちの行動が落ち着いていく。保護者からは、親や学校が教えられないことを教えてもらっていると感謝もされたと言った。

参加者の声

参加者の満足度がとても高いイベントだったことがわかる声がたくさん寄せられた。

- 障害を持つ高校生のための性暴力被害防止やデートDV防止の講座をしています。郡さんのお話からたくさんことを学びました。NOと言えることの大切さを、今後はもっと丁寧に語り掛けたいと思いました。
- 多方面から日本の現状や様々な実践、今後の課題について知ることができ、貴重な機会となりました。今日いただいた将来への希望を胸に、自分にできることを少しずつ諦めずに頑張っていきたいです。
- 性の話をすごく身近に感じました。同意をとる・ノーと言える関係づくり・性に関する言葉選び(当たり前に使っている言葉が相手の性自認を否定するものであることもある)など、それ自体が当たり前の世の中になればなと思いました。
- 出前授業を行っていく中で、「人間関係の話でデートDVというテーマがぼやけている」という意見を頂くことが時折あったのですが、DVと虐待などもそうですが、何か1つの課題を解決すればそれいいのではなく、すべての社会的課題は根底ではつながっており複合的に支援していくことの重要性を伝えていくことの大切さを改めて感じました。
- 「ヘルシーな関係」を築くこと、何十年も生きてきた大人でも難しい、と思います。若い世代の人がひとりで困っているとき、傷ついたとき、誰かに気持ちを聞いてほしいときに”話してもいいかな”と思い出してもらえるような存在でありたいな、と思いました。

⑤ ユースプロジェクト カードゲーム「サチヨと恋バナ」の制作

事業名	カードゲーム「サチヨと恋バナ」の制作
期間	2023年9月～2024年5月

活動内容

カードに書かれたお題に答えていくことで、相手との仲が深まり、対等な関係性が構築できるカードゲーム「サチヨと恋バナ」を制作・200部を発行し、ユース団体などに提供開始した。



2023年の調査では、日本において未婚者のうち恋人がいない人が72%存在する一方、未婚者の中で60%が交際に興味を持っていることが示された。交際においては、66%の人が初めてのデートの会話に苦手意識を持ち、何を話せばいいのかわからない、人見知りで話が弾まないといった懸念が挙げられている。また、未婚者が恋人に求めるものとして、経済力よりも対話力や価値観といった内面の相性を重視することが示されている。

「サチヨと恋バナ」は、このような背景を踏まえ、会話への苦手意識から恋愛をしたくても踏み出せない人に向けて、自然と会話が弾み、お互いの内面的な相性を深め、健全な交際を続けていく後押しをするプロダクトとして開発した。

開発までのプロセス

「サチヨと恋バナ」の開発は以下のプロセスを経て行われた：

1. **ヒアリング**

- 対象：17 歳～29 歳の高校生、大学生、社会人
- ジェンダー：様々なジェンダー（LGBTQ 含む）
- 地域：首都圏中心、地方在住者も含む
- サンプル数：30 人以上
- 内容：恋愛の悩みについて
 - 「パートナーが自分に許可なく Instagram ストーリーに自分の写真をあげていて嫌だった」(20 歳、学生)
 - 「毎日、寝落ちするまで長時間の LINE 通話を要求される」(20 歳、学生)
 - 「自分は学生なのに、パートナーからデート代を全額出すように強要された」(21 歳、学生)
 - 「パートナーは公共の場でスキンシップをとりたがるが、同性パートナーなので他人に見られたくない」(23 歳、学生)
 - 「合コンで相手の容姿について言及してしまい、嫌な顔をされた」(26 歳、社会人)
 - 「パートナーが仕事で疲れているにも関わらず、セックスをしつこく要求してしまった」(25 歳、社会人)
 - 「パートナーの帰宅が遅くなる時に連絡がないことについて問い詰めてしまった」(27 歳、社会人)

2. **テストプレイ**

- 回数：5 回以上
- 参加者からのフィードバック：
 - 聞かなければならない（聞いた方がよい）価値観についての質問ですが、個人で聞くのは勇気が必要だったりするため、とても良い機会になる
 - 付き合うとなると結婚や同棲を意識してしまうので、やっぱりお金の使い方やスキンシップ、家事の分担などの質問はゲームをきっかけに知れるのは嬉しいし、使いたい
 - お互いの連絡の頻度やどの程度であれば嫉妬するかなど、関係性の中でなんとなく進めているようなことを改めて相手から理由も含めて言葉で伝えてもらえるのが良かった

事業の特徴と効果

「サチヨと恋バナ」は、お節介な関西出身のサチヨによって出されるお題を、参加者全員で答えていくゲーム。例えば、「メッセージか電話、どっち派なん？頻度は？」、「恋人にプレ

ゼントをもらうか、一緒にゆっくり旅行に行くか、どっちのほうが嬉しいん？」など、お互いの価値観を共有できるお題が用意されている。質問に答えることで自然とお互いのことを知り、心の距離を縮めることができる。内容の踏み込み度合いに応じてレベル分けされており、一緒に遊ぶ人との関係性に応じて使い分けられ、徐々に仲を深めていける。



カードの内容は、30人以上にヒアリングした「交際前に相手に確認したい恋愛の価値観」をベースに作られており、聞きたい内容が網羅されている。また、開発にあたり、様々な対話ワークショップを実践している東京大学の梶谷真司教授（哲学）の監修を受けており、対話がしやすいルール設計とトークテーマが工夫されている。



このゲームを通じてお互いの恋愛観をすり合わせることで、付き合いが深まってからも話やすく、対等で素直な関係を作るのに役立つ。付き合う前のデート相手や付き合っているカップルだけでなく、合コンや飲み会などの友達同士で使うことも可能。

デート DV 予防への寄与

「サチヨと恋バナ」は、恋愛観をすり合わせることでデート DV 予防につながることを目指す。2016 年全国デート DV 実態調査によると、3 人に 1 人が経験しているというデート DV だが、「デート DV」という言葉の認知度は依然として低く、当事者意識を持ちにくい現状がある。ゲームの開発に際して若者へのヒアリングでも、本人が自覚しないままデート DV を受けている事例が散見された。

ヒアリングの中で見られた「連絡頻度についての束縛」、「デートの支払い」、「パートナーが勝手にスマホを見ている」といった DV につながるシチュエーションもカードゲームの内容に含めており、話し合いができるようになっている。カードゲームという形で恋愛や性についてオープンに話すきっかけを作り、お互いの価値観を尊重した関係構築、ひいてはデート DV 予防につなげるという想いで「サチヨと恋バナ」は開発された。

今後の展望

1. 一般のユース向け啓発

- 出会いの場（合コンに使われる居酒屋、出会えるバー、婚活パーティー）での使用促進
- 現在大手婚活事業会社と連携を進行中

2. 教育現場向け

- カードゲームを使ったワークショップ開発
- ファシリテーター育成講座の実施

「サチヨと恋バナ」はユース世代の恋愛観をオープンに話し合い、健全な関係構築をサポートするためのツールとして大きな可能性を持つ。

3、課題と展望

今回、SJF 基金の助成をいただいて、「デートDV防止から始めるジェンダー平等な社会づくり」というテーマで、様々な活動を行ってきた。

NPO法人デートDV防止全国ネットワーク（以下、全国ネットワークと記載）は、団体が示すように中高校生や大学生を中心とした若い世代や、その周囲にいる教職員を対象にデートDV防止教育を行い、それを全国に普及することを目的に設立された団体である。

DVという暴力は、深刻な人権侵害であり、かつ家庭という密室のみでなく、交際しているカップル間でもたいへん多く起きており、時には傷害事件、殺人事件までにいたる場合がある。配偶者間のDVを無くし、その家庭で養育される子どもたちへの暴力の影響を減らすためにも、まずは、交際している時期からのデートDV防止教育が重要と考えて活動を行ってきた。しかし、当然ながら、若い世代が育ってきた社会全体に、根深いジェンダー観の偏りや差別があり、暴力を容認する社会の在り方が、若者たちへ大きな影響を与えている。したがって、今回の助成金による活動のターゲットとして、学校にいる若者を対象とした活動から一歩を踏み出し、新たに、社会の構成員のいろんな対象への働きかけを行うことにした。

結果として、報告にあげたように、①企業研修の実施 ②LGBTQ+の団体や障がい者団体での研修実施 ③スプリングフォーラムでの様々な立場の人の交流 ④国会議員への働きかけとしての院内勉強会の開催 ⑤若者のコミュニケーションツールとしてのカードゲームの作成

の、5つの活動を行うことができた。

各活動を振り返ると、

①企業研修については、まず、この研修を受け入れてくれる企業に出会うことがとてもたいへんであった。打診した企業の多くからは、人権への取り組みとしてハラスメント研修は必須と考えているが、DVやデートDVは、あくまで家庭や個人間の問題だとの認識で、企業研修で取り組むべき内容ではないという返答があり、暴力が社会全体の課題であるという捉え方はまだまだ少ないということが分かった。しかし、すでに取り組んでいる企業、そして今回初めて研修を実施した企業では、DVは当事者のみならず子どもへも大きな影響を与え、国全体の社会的コストも膨大なものであることが理解され、企業が積極的に取り組むことの意義についての認識が深まったことは、ひとつの成果であった。しかし、一般の多くの企業で取り組みを広げていくためには、DVやデートDVが企業にとっても大切な課題と認識してもらう必要があり、企業研修の優先順位を上げるには多くのハードルがある。

②LGBTQ+のコミュニティの中でもデートDVが多いことは、当事者の方からよく聞くことではあったが、具体的に研修を実施できる団体とつながるまでには予想よりも時間がかかった。しかし実施した結果、内容も好評で、今後、当事者にいっそう役に立つ内容となるようプログラムを充実させていく可能性が期待でき、今後取り組みを継続していきたいと考える。

- ③院内勉強会は、国会議員や各省庁の方へデート DV の実態を知ってもらい、今はまだ配偶者暴力防止法の枠外であるデート DV について、法の対象としたいこと、予防教育を義務化して欲しいことを訴える場であった。しかし、日程の確保や議員会館の会場確保、さらに、なにより困難なのが、忙しい各議員の方へ出席をしてもらうことの難しさだった。事前にチラシを届け話をし、たとえ出席の返事をいただいても、国会会期中は審議が最優先であり、今回も急遽本会議が入るなどのハプニングがあり、国へ働きかけることの困難さを実感した。どうしたら、各政党の方々へのロビー活動を効果的にできるのか、その時間の確保、人員の確保など、課題は大きいと感じている。
- ④スプリングフォーラムでは、基調講演に「ヘルシーリレーションシップ」というテーマで対等な関係について具体的に助産師のシオリヌさんに語っていただいたこと、障がいをもつ子どもの放課後デイでの性についての学び、企業での DV 対策、多様な性とヘルシーコミュニケーションというテーマでの講演を聞き、その後、参加者が分科会で、日頃よく知らない分野について知った上で、意見交換ができた。こー見、違う分野の活動をしているようでも、根柢には共通した課題があることを共有できた貴重な時間であった。今後、このような場が各地域で持つことを期待したい。
- ⑤カードゲームは、若いメンバーが中心になって内容、デザインを検討。若い世代に受け入れられるものが完成した。性的なテーマについても楽しく、かつ境界線を意識しながら会話ができる、今後が楽しみな作品ができた。ヘルシーリレーションを実現するためのツールとして、どう広めていくかはこれからの課題である。

今回の SJF 基金による取り組みは、全国ネットワークの通常の活動の枠を一回り広げる機会となり、社会のさまざまな構成員への働きかけという意味では、5つの活動で、それぞれに成果をあげることができた。今後の展望としては、それぞれの活動をどう継続していくか、見えてきた課題をクリアするには何が必要か、また、全国ネットワークとして、すべての課題に取り組むことは、限度があることも踏まえて方向性を考えていきたい。ネットワークのメンバー、そして今回縁あってつながった個人・団体などにも知恵をいただきながら、さらに緩やかにネットワークを広げていくことも大切だと感じている。どうしたら、この社会からデート DV や DV をなくしていくことができるのか、その基本を大事にしながら、今後も活動を効果的に継続していきたい。

「デートDV防止から始めるジェンダー平等な社会づくり」報告書

発行日：2024年7月

発行：NPO 法人デートDV防止全国ネットワーク

ddvbousinet@yahoo.co.jp

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複製複写（コピー）することは、著作権上で認められている場合を除き、禁じられています。本書のデータや文章などを引用する場合は、必ず出典を明記いただき、当団体へご連絡をお願いします。



ソーシャル・ジャスティス基金

2022年度第11回助成事業

「デートDV防止から始めるジェンダー平等な社会づくり」報告書